



ずっくま！

みんなでつくる ずっといいまち くまとりちゅうがっこう

第4号 2026.7.17

ESDとは…

Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)の略語。

さまざまな現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、将来にわたって持続可能な社会の実現をめざす、「持続可能な社会」の創り手を育む教育のことです。



【ESD関連用語の紹介】

難民

=戦争や人権侵害など、様々な理由によって住み慣れた故郷を追われ、外国に逃れざるを得なくなった人びとのこと。現在、世界には約4400万人(国内避難民を加えると、1億2300万人)の難民がいると推計されている。

UNHCR

=国連難民高等弁務官事務所。難民問題の解決に取り組む、国連の機関。1950年に設立され、過去に二度ノーベル平和賞を受賞している。

学びを世界へ“届けよう、服のチカラ”

7月15日(水)、1年生がユニクロ“届けよう、服のチカラ”プロジェクトの特別授業に参加しました。これは、難民支援について学習し、着なくなった古着を回収して世界の難民キャンプに届ける活動で、これまで全国のべ5000校の小中高校生が参加しています。熊取中学校も2年前から継続的にこの活動に参加しており、3年間で全学年生徒がこの学習を経験したことになりました。

1年生は、1学期の人権学習を発展させて、「平和を世界に届けよう」という主題でこの学習に取り組み始めました。まだ“自分ごと”として実感しにくいという人もいたことと思いますが、「服の旅先」と題された映像にくぎ付けになる姿や、質疑応答を通して学びを深めていく姿が大変印象的でした。2学期には、1年生のプロジェクトチームを立ち上げて、国際支援につながるプログラムを企画・実行していく予定です。これからも学びを広げていきましょう！



「平和を語り継ぐ」修学旅行報告会

7月16日(木)には、3年生が1・2年生にプレゼンテーションを行う修学旅行報告会が行われました。「一期一会 ～Love and Peace 私たちがつなぐ平和のバトン～」をテーマに、3年生は沖縄で学んだことや考えたことをまとめ、発表しました。3年1・2組が1年生に、3・4組が2年生に、それぞれ9班に分かれて、自分たちの感じた「平和」の大切さを伝えました。キターネホールのステージに立って発表するという経験は、多くの人にとって初めてで、とても緊張したことでしょう。それでも、力強く、堂々と自らの学びの成果を発表する姿に、たくましさを感じました。3年生の言葉の一つひとつに重みがあり、平和を「語り継ぐ」ことへの責任を実感しながら、自分の言葉で後輩たちに語りかけようとしているのが伝わりました。誰一人取り残さず楽しめる修学旅行を自分たちでつくり上げ、学年の仲間のことがよりいっそう好きになったという話がとても印象に残っています。修学旅行を心から楽しめるようになるために、目の前の学校生活を大切にしたいというメッセージは、きっと後輩たちの心にも響いたのではないのでしょうか。全校のみなさんでこの学びを共有し合えたことは、とても素敵なことだと感じています。このようなみなさんの思いが、きっと明日の平和をつくっていくのだと信じています。

